

三宅 高等学校 令和6年度（1学年用）教科

国語 科目 現代の国語

教科：国語

科目：現代の国語

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 NK 組～ F 組

教科担当者：（NK・F組：廣見）

使用教科書：（精選 現代の国語（東京書籍））

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力を伸ばし、伝え合う力を高め、考えを広げたり深めたりすることができる

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 現代の国語

の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|-----------------------------|--|--|
| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 領域 | | | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|---|--|--|-----|---|--|---|---|---|----|----------|
| | | | 話・聞 | 書 | 読 | | | | | |
| 1 学期 | 自己と他者「屈く言葉」「話す、聞く一わかりやすい説明」 | 評論の読み方のポイントを押さえる。評論で論じられている内容の理解を深めるために現代の問題に関心を持ち、自分自身のこととして積極的に向き合う姿勢を養う。（評論の読み方） | ○ | | | 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。「話すこと・聞くこと」で、自分の立場や考えを明確にし、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 | ○ | ○ | ○ | 14 |
| | 相手に「屈く言葉」とそうでない言葉の違いについて、対比的に書かれた評論を読み取る。 話す・聞く 分かりやすい説明をする | | | ○ | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 定期考査 | | | | ○ | | ○ | ○ | | 1 |
| 2 学期 | 認識を深める「水の東西」「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 書く 発想を広げて課題を見つける。 | 「鹿おどし」の具体的な動きと、「鹿おどし」を見て筆者が感じ取ったことを表現に即して読み取る 新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる | | ○ | | 「読むこと」において、目的に応じて、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 | ○ | ○ | ○ | 14 |
| | 定期考査 | | | | ○ | ○ | ○ | | 1 | |
| | 言葉と社会、「まちの豊かさとは何か」「本を紹介する」「豊かさ」とは何かについて書かれた評論を読み、その考え方の違いについて理解を深める。 本の紹介、話の構成や、紹介の仕方を工夫して話す。 | 評論の読み方を押さえる。評論で論じられている内容の理解を深めるために現代の問題に関心を持ち、積極的に向き合う姿勢を養う。（評論の読み方） 選んだ本を班の中で紹介し合い、班として紹介する本を決める。 | ○ | | | 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえ、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 | ○ | ○ | ○ | 14 |
| 定期考査 | | | | ○ | ○ | ○ | | 1 | | |
| 3 学期 | 言葉と社会・時間と自由 時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、必要に応じてその内容を要約する。 グラフや写真の読み取り方 | 評論で論じられている内容の理解を深めるために現代の問題に関心を持ち、自分自身のこととして積極的に向き合う姿勢を養う。（評論の読み方） 資料の読み手や目的に応じて、内容や全体の構成を考えて、説明資料にまとめる。 | | ○ | | 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。積極的に説明資料の作成に必要な情報を収集、整理し、学習課題に沿って伝える相手や目的を意識した説明資料を作成しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 14 |
| | 定期考査 | | | | ○ | ○ | ○ | | 1 | |
| | 「自立」の在り方について考察する 評論を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 紹介されている体験談を踏まえて、「能力」に関する筆者の考えを読み取る。 異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く | 筆者の主張する「自立」について、現代社会で混同して使われている「独立」という言葉との違いも踏まえて読み取り、まとめる。 現代人の時間の在り方について、筆者がどのように捉えているのかを説明する。 「読書について書かれた文章」A～Cを読み比べて意見文をまとめた例を参考に、自分の意見を書く方法を理解する。 | ○ | | | 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。積極的にテーマに沿った本を探し、学習の見通しをもって異なる主張の文章を読み比べ、自分の考えが読み手に伝わるように意見文としてまとめようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| 共に生きる 世界を広げる 人間の在り方について考察する 評論を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 書く 論証してレポートを書く 発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。 | 「『自らの人生を生きる』」について筆者の考えを他の作品の著者の考えとの対比を踏まえて理解し、まとめる。 「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。レポートの種類を理解し、論証型レポートを書いた例を参考に、レポートの書き方を確認する。 | ○ | | | 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 調査内容をパワーポイントなどにまとめ、資料を作成する。その際、伝えたいことを明確に表現できるよう、タイトルの付け方や、図表の配置などを工夫する。 | ○ | ○ | ○ | 5 | |
| 定期考査 | | | | ○ | ○ | ○ | | | 70 | |
| 合計 | | | | | | | | | | |

年間授業計画

三宅 高等学校 令和6年度（1学年用）教科 国語 科目 言語文化

教科：国語

科目：言語文化

単位数：2 単位

対象学年組：第1 学年 N 組 F 組

教科担当者：(N組：坂田)

(F組：坂田)

(組：)

(組：)

(組：)

使用教科書：(言語文化(大修館))

教科 国語

の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 言語文化

の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|--|--|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 領域 | | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------------|--------------------|---|--------|--------|---|---|---|---|----------|
| | | | 語 文 | 書 読 | | | | | |
| 1 学 期 | 言語と文化の関係について理解を深める | 世界を見わたす窓／文字の深秘 宇治拾遺物語 田舎の児、桜の散るを見て泣くこと | | ○ | 【知識・技能】 言葉と文化の間に深い関連があるということについて理解している。 古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古典の説話と現代の様々な文化とのつながりを理解しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 9 |
| | 自然へのまなざし | をりふしの移り変はるこそ／神無月のころ | | ○ | 【知識・技能】 文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現したいことを明確にしている。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品ごとの自然観を理解しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | 定期考査 | | | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 説話文学について | 児のそら寝／絵仏師良秀／阿蘇の史、盗人にあひてのがること／ | | ○ | 【知識・技能】 古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 古典の説話と現代の様々な文化とのつながりを理解しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 9 |
| | 自然へのまなざし2 | 九月ばかり／雪のいと高う降りたるを／春はあけぼの | | ○ | 【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品ごとの自然観を理解しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| 定期考査 | | | | | ○ | ○ | | 1 | |

| | | | | | | | | | | |
|---------|----------|------------------------------------|--|--|---|---|---|---|---|----|
| 2 学期 | 言葉の紡ぐ世界 | 羅生門／今昔物語集／小説の構造 ／翻案の世界 | | | ○ | 【知識・技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 9 |
| | 漢文に親しむ | 私たちと漢文／訓読のきまり／論語 | | | ○ | 【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢文訓読のきまりを理解しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | 定期考査 | | | | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 現代に生きる言葉 | 蛇足／完璧／鶏鳴狗盗／臥薪嘗胆 | | | ○ | 【知識・技能】 古典を読むために必要きまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 故事成語の内容や文化的背景に興味を持ち、学習したことを普段の生活の中に生かそうとする | ○ | ○ | ○ | 9 |
| 3 学期 | 寓話について | 黔之驢／良識派 | | | ○ | 【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、論理の展開や作者の主張を読み取ろうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | 定期考査 | | | | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 詩歌について | 短歌十五首／万葉集・古今和歌集・新古今和歌集／サーカス／静夜思／春望 | | | ○ | 【知識・技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の文化的背景について理解を深め、文書の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 【思考・判断・表現】 「書くこと」において、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈すること。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 9 |
| | 定期考査 | | | | | | ○ | ○ | | 1 |
| | | | | | | | | | | 合計 |
| | | | | | | | | | | 70 |

年間授業計画

三宅高等学校 令和6年度（1学年用） 教科

地理歴史 科目 地理総合

教科：地理歴史

科目：地理総合

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 F 組～ K 組

教科担当者：（F組：土田）（K組：土田）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（地理総合（東京書籍）、新詳高等地図（帝国書院））

教科 地理歴史

の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解する。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 地理総合

の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|--|
| 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 | 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする態度を育てる。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------------|---|---|--|---|---|---|----------|
| | | | | | | | |
| 1 学 期 | ○緯度・経度の違いが、私たちの生活にどのような影響を与えているのか理解する。 ○地球儀と世界地図の違いを理解し、用途に応じて適切に利用できるようにする。 ○日本の位置と領域を理解する。 | 私たちが暮らす世界 1 緯度・経度 2 地球儀と世界地図 3 日本の位置と領域 | ・世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。 ・地球上の位置に関する事柄について多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高めている。 | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | ○さまざまな地図があることを理解し、地図利用の可能性を考える。 ○主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けるのかを考察する。 | 地図や地理情報システムの役割 4 地図の種類 5 地形図のルール 6 主題図の種類と読み取り 7 地理情報システムと地図 | ・地図についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。 ・様々な地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 ・紙の地図やGISに対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | ○交通・通信技術の発達により人やモノ、情報が国境をこえてやり取りをされるようになったことについて、適切に理解する。 ○国境をこえた経済活動や政治的なつながりが、人・モノ・情報などのやり取りに大きく影響を及ぼしていることに着目し、現代世界におけるグローバル化の進展について課題意識をもって考察する。 | 資料から読み取る現代世界 8 交通の発達 9 情報通信の発達 10 国境をこえる人々の移動 11 拡大する貿易 12 つながる世界、多極化する世界 | ・交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択肢で、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結びつきが強まっていることに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 | |
| 2 学 期 | ○世界には多様な文化が存在すること、近年それが均一化する傾向にあることを理解する。 ○地形や気候が地域によってどのように異なるのか、それらが人々の生活にどのように影響を与えてきたかを考察する。 | 人々の生活文化と多様な地理的環境 1 生活文化の多様性と国際理解 2 生活文化と自然環境 3 生活文化と産業 | ・世界にみられる多様な文化について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・技術の発展やグローバル化などによってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 15 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | ○地球環境問題の背景と影響を理解し、解決策を考察する。 ○さまざまな資源・エネルギーの特徴を理解し、生産や消費のあり方を考える。 ○地球規模で取り組むべき課題の内容や特徴を確認し、解決や改善に向けた取り組みを考える。 | さまざまな地球的課題と国際協力 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口問題 4 食糧問題 5 居住・都市問題 6 民族問題 7 持続可能な社会の実現をめざして | ・さまざまな要因がからむ地球的な課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地球的な課題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる地球的な課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとして | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| 3 学 期 | ○日本列島の自然環境の特徴について世界的な視点からとらえると同時に、地形と気候の両面から理解する。 ○日本列島の自然環境の特徴と各地域において発生する自然災害との関係性について、世界的な視点から考察する。 | 自然環境と防災 1 日本の自然環境の特色 2 さまざまな自然災害と防災 | ・変化に富んだ日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・日本列島の地形や気候と自然災害について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | ○地域調査の手順や具体的な手法を理解し、身近な地域において地域調査を実践する。 | 生活圏の調査と地域の展望 | ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 ・身近な地域の特徴を、設定したテーマに沿ってとらえ、明らかになったことを適切に表現している。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教科： 数学 科目： 数学 I 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 NK組～ F 組

教科担当者：（基礎クラス：高石 大樹）（標準クラス：斎藤 光）

使用教科書：（数研出版 最新 数学 I ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 基本的な公式、計算ができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】 問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】 多くの問題が解けるように努力したり、他者とのように問題を解いたのが共有することができるようになる。

科目 数学 I の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---------------------|--|---|
| 基本的な公式、計算ができるようになる。 | 問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。 | 多くの問題が解けるように努力したり、他者とのように問題を解いたのが共有することができるようになる。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配 当 時 数 |
|-------------|---|--|---|---|---|---|------------------|
| | | | | | | | |
| 1 学 期 | 【知識・技能】 数と式について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 公式を適切に使用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる | 多項式、多項式の加法・減法・乗法、展開の公式、式の展開の工夫、因数分解、いろいろな因数分解、実数、根号を含む式の計算、不等式、不等式の性質、1次不等式の解き方、連立不等式、不等式の利用 | 【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み | ○ | ○ | ○ | 28 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 【知識・技能】 集合と命題について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 集合に関する証明ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる | 集合と部分集合、共通部分・和集合・補集合、命題と集合、命題と証明 | 【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み | ○ | ○ | ○ | 9 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| 2 学 期 | 【知識・技能】 2次関数について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 グラフから方程式を求められる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる | 関数、関数とグラフ、2次関数の最大・最小、2次関数の決定、連立不等式、2次関数のグラフと軸の共有点、2次不等式、2次不等式の利用 | 【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み | ○ | ○ | ○ | 29 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 【知識・技能】 図形と計量について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 三角比を用いて測量ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる | 鋭角の三角比、三角比の利用。、三角比の相互関係、三角比の拡張、三角比が与えられたときの角、正弦定理、余弦定理、三角形の面積 | 【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み | ○ | ○ | ○ | 11 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| 3 学 期 | 【知識・技能】 図形と計量について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 三角比を用いて測量ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる | 鋭角の三角比、三角比の利用。、三角比の相互関係、三角比の拡張、三角比が与えられたときの角、正弦定理、余弦定理、三角形の面積 | 【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み | ○ | ○ | ○ | 8 |
| | 【知識・技能】 データの分析について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 公式を適切に使用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる | データの整理・代表値・散らばり・相関、相関係数、分割表、仮設検定の考え方 | 【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み | ○ | ○ | ○ | 15 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | | | | ○ | ○ | | 合計 105 |

年間授業計画

三宅高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科：数学

科目：数学A

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 F組～ 組

教科担当者：（F組：高石大樹）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（数研出版 最新 数学A ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】基本的な公式、計算ができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】多くの問題が解けるように努力したり、他者とともに問題を解いたのが共有することができるようになる。

科目 数学A の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---------------------|--|--|
| 基本的な公式、計算ができるようになる。 | 問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。 | 多くの問題が解けるように努力したり、他者とともに問題を解いたのが共有することができるようになる。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------------|---|--|---|---|---|---|----------|
| | | | | | | | |
| 1 学 期 | 集合の考え方を理解し、集合で使われる記号を正しく使い、効率よく表現することができる。 | 集合 共通部分と和集合 全体集合と補集合 集合の要素の個数 補集合の要素の個数 | ○要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。 ・例4, 練習4 ○和集合の要素の個数の公式を用いることができる。 ・例題1, 練習5 ○補集合の要素の個数の公式を用いることができる。 ・例題2, 練習6 ○日常的な事象に対して集合を考え、人数などを求めることができる。 ・例題3, 練習7 | ○ | ○ | ○ | 8 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | 和の法則 積の法則 順列 組合せ | ○順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ・例5, 練習12, 13 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。 ・例題6～8, 練習14～16 | ○ | ○ | ○ | 8 |
| | 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | 確率の基本的性質 和事象の確率 余事象の確率 独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付確率 | ○積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に積事象、和事象の考え方が適用できるかを見極めることができる。 ・例10, 練習31 ○事象の排反の意味を理解し、2つの事象が排反であるかを判断できる。 ・練習32 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| 2 学 期 | 三角形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | 角の二等分線 三角形の外心、内心、重心 チェバの定理、メネラウスの定理 | ○平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ・練習1 ○線分の内分と外分を理解し、内分する点と外分する点を図示することができる。 ・例1, 練習2 ○三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ・例2, 練習3 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 円の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | 円周角の定理 円と接線 方べきの定理 空間図形 | 中学校で学んだ円周角の定理やその逆について理解している。 ・p. 80, 81 ○円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。 ・例6, 練習10 ○円周角の定理の逆を用いて、4点が同一円周上にあることを調べることができる。 ・練習11 | ○ | ○ | ○ | 13 |
| 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 | |
| 3 学 期 | さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。 | 約数と倍数 一次不定方程式 記数法 | ○公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。 ・例5, 練習9 ○素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。また、互いに素の意味を理解し、2つの整数が互いに素であるかどうか判定できる。 ・例6, 練習10 | ○ | ○ | ○ | 16 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | | | | | | | 合計 |
| | | | | | | | 70 |

三宅高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科 科目：化学基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 NK組～F組

教科担当者：加藤 千鶴

使用教科書：（高校化学基礎 実教出版）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|--------------------------|------------------------------------|
| 物質とその変化について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。 | 観察、実験などを行い、化学的に探究する力を養う。 | 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------------|--|--|--|---|---|---|----------|
| | | | | | | | |
| 1 学 期 | 1章1節物質の分離や精製方法について、元素の確認、状態変化などについて理解させる。また、実験に必要な技能を身に付けさせる。物質三態の違いおよび熱運動について理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 純物質と混合物の性質 混合物の分離と精製 単体と化合物 単体と元素 同素体 元素の確認 物質の三態と状態変化 熱運動と温度 | <p>【知識・技能】 物質の分離・精製や元素の確認、状態変化などについて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 物質の分離・精製や元素の確認、状態変化などの観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 物質の分離・精製や元素の確認、状態変化などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 8 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 1章2節 原子の構造、物質の構成粒子について理解させる。 原子の電子配置から、イオンへの変化について理解させる。 周期表を書くことで、性質の類似点を理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 原子 原子番号 同位体 電子配置 イオンの生成 周期表 イオン化エネルギー | <p>【知識・技能】 物質の構成粒子について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 物質の構成についての観察、実験を行い、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 物質の構成などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 8 |
| | 2章1節 イオン結合について、陽イオンと陰イオンがクーロン力で結びついた結合であることを、電子配置と関連付けて理解させる。 様々なイオン結晶が存在し、その性質について、日常生活と関連付けながら探究させる。 | <ul style="list-style-type: none"> イオン結合 イオン結晶の組成式と書き方 イオン結晶の融点 イオン結晶の電気伝導性 電解質と非電解質 イオン結晶の利用 | <p>【知識・技能】 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 イオンやイオン結合の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 イオンやイオン結合などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 6 |
| 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 | |
| 2 学 期 | 2章2節 分子からできた物質の性質について理解させる。 共有結合について、電子配置と関連付けながら理解させる。 分子の構造式を書けるように指導する。 電気陰性度について、具体的な例を挙げることができる。 分子結晶の性質および、利用例、日常生活との関連について理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 分子 分子式 共有結合と分子の形成 電子式 共有電子対と非共有電子対 構造式 配位結合 電気陰性度 分子の極性と溶解度 分子結晶の性質と利用 高分子化合物 共有結合の結晶 | <p>【知識・技能】 共有結合を電子配置と関連付けて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。また、分子からなる物質の性質を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 分子からなる物質の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 共有結合や分子からなる物質などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 13 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 2章3節 金属結合について、金属の展性や延性、電気伝導性などの性質と関連付けながら理解させる。 金属の代表的な例として、鉄・アルミニウム・銅などの利用例より、日常生活と関連付けながら探究させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 金属結合 金属の利用 合金 | <p>【知識・技能】 金属結合を電子配置と関連付けて理解するとともに、金属の性質を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 金属の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 金属に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。</p> | ○ | ○ | ○ | 3 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |

三宅高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 NK組～F組

教科担当者：加藤 千鶴

使用教科書：（高校生物基礎 実教出版）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎 の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|---|
| 生物や生物現象についての観察、実験などを行うことで生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技を身に付ける。 | 生物現象から、探究の過程を通して観察、情報収集、仮説設定、実験計画、検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を育む。 | 生物現象に主体的に関わり、気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 思 態 | | | 配当 時数 |
|---|---|--|---|-------|---|---|----------|
| | | | | | | | |
| 1 学 期 | 1章1節 生物の共通性・多様性について、進化と関連付けて理解させる。原核細胞・真核細胞について学習し、構造や働きについて理解させる。細胞小器官の名称と特徴を理解させる。細胞の観察実験を通して、生物の構造や違いについて探究し、理解しようとする力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性 生物の分類 生物の進化と共通性・多様性 様々な細胞 単細胞生物と多細胞生物 | <p>【知識・技能】 原核細胞と真核細胞の違いについて理解している。試料を光学顕微鏡で観察する技術を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】 資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見出し表現することができる。DNAのはたらきについて理解し、説明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生物の共通性を、実験や観察を通して見出し、理解しようとする。原核細胞と真核細胞について、違いを理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | 1章2節 代謝には同化と異化があり、ATPを利用して行われることを理解させる。生体触媒である酵素を上げ、その働きと気質特異性について理解させる。また、酵素カタラーゼの実験を行うことで、酵素の働きや基質との関係について、科学的に探究させていく。光合成と呼吸の仕組みやATPとの関係について理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 生命活動とエネルギー 代謝 酵素の働き 光合成と葉緑体 呼吸とミトコンドリア 光合成と呼吸の比較 | <p>【知識・技能】 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。生体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、ATPと関連づけて考察できる。カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 7 |
| 2章1節 染色体とDNA、遺伝子の違いについて理解させる。また、DNAの構造から、DNAの複製の仕組みについて理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とDNA 遺伝子の構造 細胞周期 DNAの複製 | <p>【知識・技能】 DNAが二重らせん構造であり、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。生物の組織からDNAを抽出する技術を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】 資料に基づき、DNAの構造を科学的に見出すことができる。DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見出し、理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 6 | |
| 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 | |
| 2章2節 生物のからだは様々なタンパク質から構成されており、そのタンパク質はアミノ酸からできていることを理解させる。DNAとRNAを比較することで違いに気づき、タンパク質合成の流れである転写・翻訳との関係について理解させる。ゲノムと遺伝子の関係について理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 生体とタンパク質 遺伝子とタンパク質 DNAとRNA セントラルドグマ 遺伝子の発現とタンパク質 遺伝情報とゲノム ゲノムと遺伝子 | <p>【知識・技能】 遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解している。試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技術を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】 mRNAとアミノ酸との対応関係について、遺伝暗号表から読み解くことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 7 | |
| 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|--|--|---|---|---|---------------|
| 2 学 期 | 3章1節 体内環境の役割および、一定の範囲に調節されていること(恒常性)について理解させる。血液の成分や働き、血液凝固について理解させる。 肝臓と腎臓の役割について学習し、体液の調節を行っていることを理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物と環境 ・恒常性 ・体液の種類 ・血液凝固 ・肝臓による調節 ・腎臓による調節 | <p>【知識・技能】 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 肝臓による物質の合成・分解などのしくみや、腎臓での塩類濃度の調節を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 肝臓や腎臓の機能を理解し、人体についての理解を深めようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | 3章2節 体内環境の維持と自律神経系、ホルモンとの関係について理解させる。 血糖濃度の調節やインスリンとの関係について、グラフを正確に読み取らせ、理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・心拍数と呼吸数の変化について ・情報の伝達 ・自律神経系 ・内分泌腺とホルモン ・内分泌系の調節 ・血糖濃度の調節 | <p>【知識・技能】 ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解している。 実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見出し、理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| 3 学 期 | 3章3節 生体防御の概要について理解させる。免疫にかかわる細胞や器官について理解する。 自然免疫や食作用、細胞性免疫や体液性免疫のシステムの流れについて理解させる。 記憶細胞による予防接種や免疫機能過敏によるアレルギー、免疫不全について正確に理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体防御の免疫 ・物理・化学的防御 ・食作用 ・細胞性免疫 ・体液性免疫 ・二次応答 ・免疫機能の過敏 ・免疫機能の利用 | <p>【知識・技能】 免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 免疫について、身近な現象と絡めて理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | 4章1節 生物と環境の関係や生態系の成り立ちについて正確に理解させる。 植生について学習し、様々な要因によって影響を受けることを理解させる。一次遷移・二次遷移について学習し、三宅島の土地と照らし合わせ、遷移について具体的に探究させていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物と環境 ・植生 ・陽性植物・陰性植物 ・植生の遷移 ・森林の更新 | <p>【知識・技能】 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 資料に基づいて、植生が変化する要因を見出し、その要因が植生にどのように影響するかを理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | 4章2節 世界のバイオームの分布と気象条件の関係を理解させる。日本のバイオームの特徴について理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・バイオームとその要因 ・世界各地のバイオーム ・水平分布 ・垂直分布 | <p>【知識・技能】 地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し、それを表現することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 4章3節 生態系には多様な生物種が存在し、その生物同士の関係性について理解させる。ペインの実験を調べ、キーストーン種を取り除くことで起こる現象について、探究させていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・土壌動物の観察 ・種の多様性 ・生態系内の生物のかかわり ・間接効果とキーストーン種 | <p>【知識・技能】 捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解している。 野外で行う調査・実験の方法を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】 生物の多様性を食物網や間接効果と関連付けて説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できる。</p> | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 4章4節 生態系が一定のバランスから成り立っていること、また人間の生活が影響を与えていることを調べ、具体的に理解させていく。 どのような活動がバランスに影響を与えているか、考えさせていく。 生態系の保全の必要性について理解させ、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生態系のバランスの維持 ・水質への影響 ・森林の破壊 ・生態系の保全と重要性 | <p>【知識・技能】 生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】 世界の環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。</p> | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 合計 70 |

年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 併合科 普通科

教科担当者：高松 百合香 小高 海穂

使用教科書：（新高等 保健体育 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|--|---|
| 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、夢画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 技 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------------|--|---|--|---|---|---|---|----------|
| 1 学 期 | <p>○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。</p> <p>○手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うことができるようにする。</p> <p>○自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>○体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い、教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p> | <p>体づくり運動 ア 体ほくしの運動</p> | <p>○定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があるとこと言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>○いろいろな条件で、歩いたり走ったり飛び跳ねたりする運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。</p> <p>○健康や安全を確保するために、体力や体調に応じた運動の計画等について振り返っている。</p> <p>○体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | ○ | 3 |
| | <p>○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解できるようにする。</p> <p>○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。</p> <p>○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。</p> | <p>体育理論 (7) スポーツの歴史的発展と多様な変化 (4) 現代スポーツの意義や価値</p> | <p>○理念が時代に応じて多様に変容してきていること、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>○現代のスポーツは、共生社会の実現にも寄与していること、ドーピングは能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせるということを言ったり、書き出ししたりしている。</p> <p>○スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。</p> <p>○スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、自主的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | ○ | 3 |
| | <p>○勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。</p> <p>○役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができるようにする。</p> <p>○攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>○テニスに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いを大切にしようとするなど、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p> | <p>球技 イ ネット型（テニス）</p> | | | | | | |

| | | | | | |
|--|---|---|---|---|----|
| <p>○テニスにおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>○ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。</p> <p>○ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。</p> <p>○作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。</p> <p>○作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
|--|---|---|---|---|----|

| | | | | | | | |
|---|--|---|---|---|---|---|----|
| <p>○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。</p> <p>○クロール、平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。</p> <p>○背泳ぎ、バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができるようにする。</p> <p>○泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>○水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとするなど、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。</p> | <p>水泳 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ バタフライ</p> | <p>○水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることを言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>○泳ぎの速さに応じて、顔を横に向けて大きさを調節して呼吸動作を行うことができる。</p> <p>（クロール）肩より前で、両手で逆ハート型を描くように強くかくことができる。（平泳ぎ）一連のストロークで、肩をスムーズにローリングさせることができる。（背泳ぎ）手の入水のキック、かき終わりのときのキック及び呼吸動作を一定のリズムで行うことができる。（バタフライ）</p> <p>○自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>○水泳の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
|---|--|---|---|---|---|---|----|

| | | | | | | |
|--|----------------------------------|---|---|---|---|----|
| <p>○勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開することができるようにする。</p> <p>○安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようになる。</p> <p>○攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようになる。</p> <p>○球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。</p> | <p>球技 ウ ベースボール型（ソフトボール）</p> | <p>○球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを言ったり、書き出ししたりしている。</p> <p>○タイミングを合わせてボールを捉えることができる。打球や守備の状況に応じた塁の回り方で、塁を進んだり戻ったりすることができる。捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを捕ることができる。打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをすることができる。</p> <p>○自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えられている。</p> <p>○互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 12 |
| <p>○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようになる。</p> <p>○自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。</p> <p>○動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようになる。</p> <p>○陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。</p> | <p>陸上競技 イ 長距離走</p> | <p>○陸上競技の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。</p> <p>○自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えられている。</p> <p>○陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 13 |
| <p>○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解できるようにする。</p> <p>○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようになる。</p> <p>○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようになる。</p> | <p>体育理論 (f) 現代スポーツの意義や価値</p> | <p>○現代のスポーツは、共生社会の実現にも寄与していること、ドーピングは能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせるといふことを言ったり、書き出ししたりしている。</p> <p>○現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。</p> <p>○スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、自主的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 1 |
| <p>○実生活に生かす運動の計画では、おなかに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができるようになる。</p> <p>○自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようになる。</p> <p>○体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとする事、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする事、話合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。</p> | <p>体づくり運動 イ 実生活に生かす運動の計画</p> | <p>○実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることを言ったり、書き出ししたりしている。</p> <p>○運動不足の解消や体調維持のために、食事や睡眠などの生活習慣の改善も含め、休憩時間や家庭などで日常的に行うことができるよう効率のよい組合せやバランスのよい組合せで運動（運動）</p> <p>○体づくり運動の学習成果を踏まえて、実生活で継続しやすい運動例や運動の組合せの例を見付けている。</p> <p>○自己や仲間の課題解決に向けた話合いに貢献しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 4 |

2
学
期

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|---|
| 個人及び社会生活における健康、安全について理解を深めるとともに、健康を身に付けるようになる。 | 健康についての自己や他者の健康を養い、合理的、計画的な解決に向けて意思決定し、判断するとともに、他者に伝える力を養う。 | 健康を通して自己の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを養い、明るく豊かで活力あふれる生活を送る態度を養う。 |

| 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価標準 | 知 | 感 | 意 | 記 | 履 | 修 |
|--|------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康指標や疾病構造の変化から、日本の健康課題を理解する。 健康指標や疾病構造の変化は社会の状況と関わっていることを理解する。 | 日本における健康課題の把握 | 【知識・技能】 健康指標の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や社会の健康について、社会的な変化が生じていることについて、理解したことを著したり書いたりしている。 【思考・判断・表現】 健康指標や疾病構造の変化に伴い、個人や社会の健康について、社会的な変化が生じていることについて、理解したことを著したり書いたりしている。 【学習に学ぶ】 健康指標や疾病構造の変化に伴い、個人や社会の健康について、社会的な変化が生じていることについて、理解したことを著したり書いたりしている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 健康の考え方がどのように変化してきたのかを理解する。 健康の成り立ちに異なる要因が関わっていることを理解する。 | 健康の考え方や成り立ち | 【知識・技能】 健康指標の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や社会の健康について、社会的な変化が生じていることについて、理解したことを著したり書いたりしている。 【思考・判断・表現】 健康指標や疾病構造の変化に伴い、個人や社会の健康について、社会的な変化が生じていることについて、理解したことを著したり書いたりしている。 【学習に学ぶ】 健康指標や疾病構造の変化に伴い、個人や社会の健康について、社会的な変化が生じていることについて、理解したことを著したり書いたりしている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| ヘルスプロモーションの考え方を深く理解する重要性を理解する。 健康な生活・推進するための環境について理解する。 | ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり | 【知識・技能】 ヘルスプロモーションの考え方を深く理解する重要性を理解する。 【思考・判断・表現】 ヘルスプロモーションの考え方を深く理解する重要性を理解する。 【学習に学ぶ】 ヘルスプロモーションの考え方を深く理解する重要性を理解する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 健康な生活・推進するには適切な意思決定・行動選択が重要であることを理解する。 意思決定・行動選択は様々な要因により影響を受けることを理解する。 | 健康に関する意思決定・行動選択 | 【知識・技能】 健康な生活・推進するには適切な意思決定・行動選択が重要であることを理解する。 【思考・判断・表現】 健康な生活・推進するには適切な意思決定・行動選択が重要であることを理解する。 【学習に学ぶ】 健康な生活・推進するには適切な意思決定・行動選択が重要であることを理解する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 応急手当の意義と、その手順や方法を身に付ける必要性について理解する。 救急医療体制の仕組みと社会的役割の重要性、適切な利用方法について理解する。 | 応急手当の意義と救急医療体制 | 【知識・技能】 応急手当の意義と、その手順や方法を身に付ける必要性について理解する。 【思考・判断・表現】 応急手当の意義と、その手順や方法を身に付ける必要性について理解する。 【学習に学ぶ】 応急手当の意義と、その手順や方法を身に付ける必要性について理解する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 心臓蘇生の意義や方法、手順について理解する。 心臓蘇生ができるようになる。 | 心臓蘇生法 | 【知識・技能】 心臓蘇生の意義や方法、手順について理解する。 【思考・判断・表現】 心臓蘇生の意義や方法、手順について理解する。 【学習に学ぶ】 心臓蘇生の意義や方法、手順について理解する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 日常生活で起こるけがの基本的な応急手当の方法を理解し、でききるようになる。 熱中症の予防および基本的な応急手当の方法を理解し、でききるようになる。 | 日常的な応急手当 | 【知識・技能】 日常生活で起こるけがの基本的な応急手当の方法を理解し、でききるようになる。 【思考・判断・表現】 日常生活で起こるけがの基本的な応急手当の方法を理解し、でききるようになる。 【学習に学ぶ】 日常生活で起こるけがの基本的な応急手当の方法を理解し、でききるようになる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 様々な場面で起こる事故とその被害の事例について理解する。 事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを理解する。 | 事故の現状と発生要因 | 【知識・技能】 様々な場面で起こる事故とその被害の事例について理解する。 【思考・判断・表現】 様々な場面で起こる事故とその被害の事例について理解する。 【学習に学ぶ】 様々な場面で起こる事故とその被害の事例について理解する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 交通安全防止には個人の取り組みと交通環境の整備が必要であることを理解する。 交通安全には様々な法的責任が生じることを理解する。 | 交通安全防止の取り組み | 【知識・技能】 交通安全防止には個人の取り組みと交通環境の整備が必要であることを理解する。 【思考・判断・表現】 交通安全防止には個人の取り組みと交通環境の整備が必要であることを理解する。 【学習に学ぶ】 交通安全防止には個人の取り組みと交通環境の整備が必要であることを理解する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 安全な社会をつくるために必要な個人の取り組みを理解する。 すべての人たちの安全を確保するために必要な環境について理解する。 | 安全な社会の形成 | 【知識・技能】 安全な社会をつくるために必要な個人の取り組みを理解する。 【思考・判断・表現】 安全な社会をつくるために必要な個人の取り組みを理解する。 【学習に学ぶ】 安全な社会をつくるために必要な個人の取り組みを理解する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 期末考査 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |

年間授業計画

三宅高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科：芸術 科目：音楽 I 単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 F 組

教科担当者：（原田 徹）

使用教科書：（教育芸術社：MOUSA）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現をしたり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽 I の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|--|---|
| 曲想をと音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 | 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞くことができるようにする。 | 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 |

| 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 表現 | | | 鑑賞 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------------|--|---|---|---|----|--|---|---|---|----------|
| | | 歌 | 器 | 創 | | | | | | |
| 1 学 期 | A 校歌 【知識及び技能】言葉の特性と曲種（音楽の種類）に応じた発声との関わりを理解し、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付けて歌うことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】歌唱表現にかかわる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり歌唱を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。 | 【校歌】 ・校歌の歌唱 ・校歌の記譜 | ○ | | ○ | 【知識・技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 また、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したごとと感受したごととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | B ソルフェージュ 【知識及び技能】視唱に関する知識や技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にすることを養う。 | 【ソルフェージュ】 ・新曲視唱 ・新曲リズム ・叩き歌い | ○ | | ○ | 【知識・技能】曲想と手拍子の奏法との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構造を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したごとと感受したごととのかわりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】曲想と手拍子の奏法との関わり、及び他者との調和を意識して演奏することに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | C 楽典 【知識及び技能】音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。 | 【楽典】 ・音名 ・譜表 ・音符 ・休符 ・リズム ・反復記号 | ○ | | | 【知識・技能】音楽に関する基礎的な理論について理解している。 【思考・判断・表現】音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】音楽理論を表現や鑑賞に生かしている | ○ | ○ | ○ | 10 |

| | | | | | | | | | | |
|---------|--|---|---|---|--|---|---|---|---|----|
| | <p>D 小さな空</p> <p>【知識及び技能】歌唱表現に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】②曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解させる。また、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解させる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】③曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方を理解させる</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 ・イタリア語歌詞の意味の理解 | ○ | ○ | | <p>【知識・技能】・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。</p> <p>・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構造を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととのかかわりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動の取り組みようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | <p>E 三味線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三味線の各構造を知る ・三味線の構え方を知る ・撥の使い方を知る ・文化譜の読み方を知る ・曲の雰囲気を知る ・曲にふさわしい奏法で弾く ・正しいリズム、音色で弾く | <p>DVD鑑賞</p> <p>花笠音頭</p> <p>寄せの合方</p> | ○ | ○ | | <p>【知識・技能】・曲想と和楽器の音色や双方との関わり、及び和楽器を使った様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。</p> <p>・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構造を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、及び和楽器を使った様々な表現に関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 ・和楽器やその作品の特徴、及び他の楽器と比較した際の音楽表現の共通性や固有性に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| 2 学期 | <p>F ピアノによる様々な表現効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴を知る ・様々な世代のピアノの特徴を知る ・様々な世代のピアノ曲を知る | <p>ピアノ鑑賞</p> | | ○ | | <p>【知識・技能】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それら働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 2 |
| | <p>G モーツァルトについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モーツァルトの生涯を知る ・様々なジャンルの音楽を知る ・様々な作品の特徴を知る | <p>映画『アマデウス』の鑑賞</p> | | ○ | | <p>【知識・技能】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している</p> <p>【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きについてを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている</p> | ○ | ○ | ○ | 4 |

三宅 高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術（美術） 科目 美術 I

教科： 芸術（美術） 科目： 美術 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 NK 組～ F 組

教科担当者： （ 笠口 さくら）

使用教科書： （ 光村図書 美術 I

教科 芸術（美術） の目標：

【知識及び技能】 造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。

【思考力、判断力、表現力等】 主題を生かし発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 美術や美術文化に親しみ、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

科目 美術 I の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|---|
| 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を創意工夫している。 | 創造的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えながら、主題を生かし発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方、感じ方を深めたりする。 | 感性を高め、美術や美術文化に親しみ主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組んでいる。 |

| 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 表現 | | | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配 当 時 数 | |
|-------------|---|---|------------------|--------|------|---|---|---|------------------|----|
| | | 絵 ・ 彫 | デ ザ イ ン | 映 画 | | | | | | |
| 1 学 期 | ①分野「絵画・彫刻」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「墨で描く・素描図」 ④目標「墨による表現の豊かさを感じ取り、墨の特性を生かして作品を描く」 | ・実際に描くことで、墨の表現の豊かさを感じ取らせ、表現の意図、工夫を考えさせ理解を深める。 ・墨の表現ならではの表現を意識させ、鑑賞させて講評を行う。自分の作品の良さや、他者の作品の良さ、工夫をに気づきお互いの良いところを認め合えるようにする。 | ○ | | ○ | | | | | 8 |
| | ①分野「絵画・彫刻」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「風景を描く」 ④目標「心惹かれる風景を、光を意識したり、構図を考えたりしながら工夫して表す」 | ・鉛筆の種類、特性について理解させる。鉛筆の濃淡とタッチによってグラデーションを作らせる。 ・線遠近法によって立体感を掴ませる。タッチや線り消しゴムを使って、立方体を描く。 ・心ひかれる風景について、自身の感じ方をもとに主題を考えさせる。 ・下絵をもとに、自身の感じたこと、意図によって水彩絵の具の技法を使い表現を工夫させる。 ・鑑賞させて講評を行う。自分の作品の良さや、他者の作品の良さ、工夫をに気づきお互いの良いところを認め合えるようにする。 | ○ | | ○ | | | | | 18 |
| 2 学 期 | ①分野「絵画・彫刻」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「本物そっくりに作る」 ④目標「立体感や質感を意識して彫刻で表す」 | ・教科書の彫刻作品を鑑賞し、彫刻作品のよさを理解させる。 ・樹脂粘土の特徴を理解させ、制作させる。 光の当たり方、レフ版の使い方など、食品の美しい写真の撮り方を理解させる。 ・樹脂粘土の特徴を理解させ、制作させる。 自分の作品に適切な皿を用意し、美しい盛り付けを意識させる。 ・鑑賞させて講評を行う。自分の作品の良さや、他者の作品の良さ、工夫をに気づきお互いの良いところを認め合えるようにする。 | ○ | | ○ | | | | | 20 |
| | ①分野「デザイン」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「文様で飾る」 ④目標「日本や諸外国の文様を鑑賞し、表現の工夫や生活との関わりを感じ取り、形や色を考えてデザインする」 | ・日本や諸外国の文様の多様性に触れさせ、色や形に注目させ、それぞれの特徴や文化的な背景について考える。 ・重染の文様の作り方を理解させる。 目的や機能を意識させ、デザインを考えさせる。 ・必要手順を考えさせ、重染の方法を生かした制作させる。 ・鑑賞させて講評を行う。自分の作品の良さや、他者の作品の良さ、工夫をに気づきお互いの良いところを認め合えるようにする。 | ○ | | ○ | | | | | 6 |
| 3 学 期 | ①分野「映像メディア表現」 ②領域「鑑賞中心の題材」 ③題材名「写真表現の可能性」 ④目標「作品を細部まで鑑賞し、作者の表現の意図や工夫を感じ取る」 | ・「99セント」を鑑賞し、作者の意図や工夫を感じ取る。感じたことを話し合い、他者の意見に関心をもち、作品の見方や感じ方を深める。 ・写真作品を鑑賞し、作者の意図や工夫を感じ取る。感じたことを話し合い、他者の意見に関心をもち、作品の見方や感じ方を深める。 | ○ | | ○ | | | | | 6 |
| | ①分野「映像メディア表現」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「テーマを決めて撮影する」 ④目標「一つのテーマを決め、光や構図などを意識して撮影しシリーズの作品をつくる」 | ・様々な写真作品を参考にして、自分が被写体を見つめて感じたことをどのように写真で表現するのか意識させながら、構図や、撮影方法を考える。 ・中間地点で一人他の人と写真を見せ合ったりして、よりよい構図などを考えさせる。必要に応じて、写真の明るさなどを編集させる。 ・鑑賞させて講評を行う。自分の作品の良さや、他者の作品の良さ、工夫をに気づきお互いの良いところを認め合えるようにする。 | ○ | | ○ | | | | | 12 |
| | | | | | | | | | 合計 | 70 |

三宅高等学校 令和6年度(1学年用) 教科

外国語

科目 英語コミュニケーションI

教科: 外国語

科目: 英語コミュニケーションI

単位数: 4 単位

対象学年組: 第1学年 組~ 組

教科担当者: (須藤、田村) (組:) (組:) (組:) (組:) (組:)

使用教科書: (COMET English Communication I)

教科 外国語

の目標:

【知識及び技能】大学入試にも対応可能な程度の単語や文法の基礎知識を身につけさせる

【思考力、判断力、表現力等】論理的・客観的に物事を理解し、様々な話題に関して自分の意見を英語で表現する方法を身につけさせる

【学びに向かう力、人間性等】英語に興味を持たせ、生徒自身の可能性に気付かせるとともに、高校卒業後も自ら学び続けられるような動機づけをする

科目 英語コミュニケーションI の目標:

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|------------------------------|---|--------------------------------------|
| 単語や熟語、文法、文構造等の基礎・基本的な知識を習得する | 様々な話題に関して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする力を養う | 教科書の単元で扱われる話題を実際の生活と結び付けて、英語に興味を持たせる |

| 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 領域 | | | | | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配 当 時 数 | |
|-------------|--|---|---|------------------|------------------|---|------|---|---|---|------------------|----|
| | | 聞 | 読 | 話 〔 や 〕 | 話 〔 発 〕 | 書 | | | | | | |
| 1 学 期 | ・現在形・過去形を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | ・進行形を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | 定期考査 | | | | | | | ○ | ○ | | | 1 |
| | ・助動詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | ・不定詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| 定期考査 | | | | | | | ○ | ○ | | | 1 | |
| 2 学 期 | ・動名詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | ・that節の用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | 定期考査 | | | | | | | ○ | ○ | | | 1 |
| | ・現在完了形を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | ・受け身の用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| 定期考査 | | | | | | | ○ | ○ | | | 1 | |
| 3 学 期 | ・比較表現を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | ・関係代名詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。 | ・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 11 |
| 合計 | | | | | | | | | | | 105 | |

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 農業 科目 総合実習（1年）

教科：農業 科目：総合実習（1年） 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～ 組
 教科担当者：（1組：荒城新（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）
 使用教科書：（なし）

教科 農業 の目標：
 【知識及び技能】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造の知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、探求的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとする態度を養う。

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|--|
| ・食品分野に関する知識、技術の理解と定着を実習場面を介して深化させる技能を身に付けている。 | ・食品に関する実習を行うに際して、工程の中で柔軟な思考力、判断力、表現力を持って対応している。 | ・課題の解決に向け、探求的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | | | 配当 時数 | |
|---------|---|---|---|---|---|----------|----|
| | | | 知 | 思 | 態 | | |
| 1 学期 | ・食品製造の目的を学ぶことで、食品製造と調理の違いを理解できるようにする。 ・食生活を含めた生活文化の変化により、消費者のニーズも変化し、これに合わせた加工食品の製造が進んだことを理解できるようにする。 ・食品産業が常に解決し続けなければならない問題に、安全性の確立、環境問題、原料の安定供給があることを理解できるようにする。 | 食品製造の意義 | ・食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け、食品産業の社会的な役割について理解している。 ・食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 ・食品製造の意義、食品産業の現状と動向について興味・関心をもち、食品産業の社会的な役割と暮らしとの関わりについて探究しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
| | ・お茶の加工の原理と、お茶の製造の製造工程を理解できるようにする。 ・チャの栽培管理ができる。 | 日本茶について | ・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・農産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の農産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | ・加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解できるようにする。 ・パンの製造においてイースト菌による発酵の仕組みを理解する。 ・小麦粉の加工の原理と、クッキー、マドレーヌ、パンの製造工程を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、クッキー、マドレーヌ、パンの製造を行うことができる。 | 穀類の加工 【クッキーの製造】 【マドレーヌの製造】 【パンの製造】 | ・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | 14 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |

| | | | | | | | |
|-------------|--|---------------------------------------|--|---|---|---|----|
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> 加工食品の原材料としての豆類の特徴と種類を理解させる。 果実類の代表的な加工食品である、ジャム、ジュース、缶詰および乾燥果実の製造方法と理論を理解させる。徴を理解できるようにする。 豆類の代表的な加工食品である、豆腐の製造方法と理論を理解させる。特徴を理解できるようにする。 原材料の特徴を理解し、ジャムの製造を行うことができる。 | 園芸加工 【ジャムの製造】 【豆腐の製造】 | <ul style="list-style-type: none"> 原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解できるようにする。 小麦粉の加工の原理と、マドレーヌ、スポンジの製造工程を理解できるようにする。 原材料の特徴を理解し、丸パン、スポンジの製造を行うことができる。 デコレーションケーキのデザインの考え方を理解し、デザインができるようにする。 | 穀類加工 【マドレーヌの製造】 【デコレーションケーキの製造】 | <ul style="list-style-type: none"> 原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | <ul style="list-style-type: none"> お茶の加工の原理と、お茶の製造の製造工程を理解できるようにする。 チャの栽培管理ができる。 | 日本茶について | <ul style="list-style-type: none"> 原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 農産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の農産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。 原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| 3 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> 加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解できるようにする。 小麦粉の加工の原理と、シュークリーム、シフォンケーキの製造工程を理解できるようにする。 原材料の特徴を理解し、シュークリーム、シフォンケーキの製造を行うことができる。 | 穀類加工 【シュークリームの製造】 【シフォンケーキの製造】 | <ul style="list-style-type: none"> 原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | 8 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 加工食品の原材料としての豆類の特徴と種類を理解させる。 果実類の代表的な加工食品である、ジャム、ジュース、缶詰および乾燥果実の製造方法と理論を理解させる。徴を理解できるようにする。 原材料の特徴を理解し、ジャムの製造を行うことができる。 | 園芸加工 【ジャムの製造】 | <ul style="list-style-type: none"> 原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている | ○ | ○ | ○ | 2 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 加工食品の原材料としての豆類の特徴と種類を理解させる。 アズキを使用した製餡の製造方法と理論を理解させる。 餡を使用した加工食品である、ようかん、どらやきの製造方法と理論を理解させる。特徴を理解できるようにする。 豆類の代表的な加工食品である、豆腐の製造方法と理論を理解させる。特徴を理解できるようにする。 | 園芸加工 【まんじゅうの製造】 | <ul style="list-style-type: none"> 原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | | | | | | | 合計 |
| | | | | | | | 70 |

高等学校 令和6年度（農業科 1 学年用） 教科 科目 農業と環境

教科： 0 科目： 農業と環境 単位数： 4 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 組

教科担当者：中嶋 龍也、石井 陽次

使用教科書：（ 実教出版「農業と環境」、実習資料、自作プリント ）

教科 0 の目標：

【知識及び技能】草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 農業と環境 の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|--|
| 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 | 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 | 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------------|---|---|--|---|---|---|----------|
| | | | | | | | |
| 1 学 期 | 第1章 農業と環境を学ぶ ・農業と環境の学び方について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ・農業と環境の学びに関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・農業と環境の学び方について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | 2 農業と環境の学び方 (1) 農業学習の特徴 (2) プロジェクト学習とその流れ (3) 報告書の作成と発表 (4) 農業学習におけるプロジェクト学習 3 学校農業クラブ活動 (1) 学校農業クラブ活動の目標 (2) 学校農業クラブの組織と活動 | ・農業と環境の学び方について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 ・学校農業クラブ活動について理解している。 ・農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 ・農業学習について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・農業と環境の学び方について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・学校農業クラブ活動について、主体的、協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 5 |
| | 第3章 栽培と飼育の基礎 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身に付けさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。 | 1 作物の特性と栽培のしくみ (1) 生活の中の作物 (2) 作物の自然分類 (3) たねと発芽・たねまき | ・作物の特性と栽培のしくみに関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・作物の特性と栽培のしくみについて多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・作物とその栽培に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
| | 第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。 | 第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト 1 農業と環境のプロジェクトの実際 (1) プロジェクトの課題設定と素材 (2) 栽培と飼育に関するプロジェクトの実際 (3) 環境に関するプロジェクトの実際 3 トウモロコシの栽培と利用 (3) 栽培の実際 4 ダイズの栽培と利用 (1) ダイズとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 6 トマトの栽培と利用 (1) トマトとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 9 ジャガイモの栽培と利用 (1) ジャガイモとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 10 花壇用草花の栽培と利用 (1) 草花とは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 | ・農業と環境に関するプロジェクト学習の意義、及び方法と進め方を理解している。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・プロジェクト学習に必要な情報収集と分析について、主体的かつ協働的に取り組むようとしている。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 20 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |

| | | | | | | |
|--|---|--|---|---|---|----|
| <p>第1章 農業と環境を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業と環境の学び方について理解しているとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 農業と環境の学びに関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・ 農業と環境の学び方について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | <p>1 農業学習とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生物を育てる学習 (2) 環境を調べる学習 (3) 農業と環境のかかわり (4) 農業と環境について学ぶ大切さ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業学習について理解しているとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。 ・ 農業学習について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・ 農業と環境の学び方について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 3 |
| <p>第3章 栽培と飼育の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・ 作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・ 作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。 | <p>1 作物の特性と栽培のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) 成長のしくみと管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の特性と栽培のしくみに関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 作物の特性と栽培のしくみについて多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・ 作物とその栽培に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| <p>第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。 | <p>3 トウモロコシの栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) トウモロコシとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 (4) トウモロコシの利用 <p>4 ダイズの栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (3) 栽培の実際 (4) ダイズの利用 <p>5 スイカの栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) スイカとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 <p>6 トマトの栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (3) 栽培の実際 (4) トマトの利用 <p>10 花壇用草花の栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (3) 栽培の実際 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 20 |
| <p>定期考査</p> | | | ○ | ○ | | 1 |
| <p>第3章 栽培と飼育の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・ 作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・ 作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。 | <p>1 作物の特性と栽培のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> (5) 作物の繁殖と育種 (6) 作付体系と作型 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の特性と栽培のしくみに関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 作物の特性と栽培のしくみについて多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・ 作物とその栽培に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
| <p>第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。 | <p>7 ハクサイの栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ハクサイとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 <p>8 ダイコンの栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ハクサイとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 <p>10 花壇用草花の栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (3) 栽培の実際 <p>2 イネの栽培と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イネとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 26 |
| <p>定期考査</p> | | | ○ | ○ | | 1 |

| | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|----|
| <p>第2章 私たちの暮らしと農業・農村</p> <p>・私たちの暮らしと農業・農村について理解するとともに、関連する技術を身につける。</p> <p>・私たちの暮らしと農業・農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する。</p> <p>・私たちの暮らしと農業・農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。</p> | <p>1 人間と植物・動物とのかかわり</p> <p>(1) 太陽エネルギーを地球にとどめる植物</p> <p>(2) 生物の生命活動のエネルギー</p> <p>(3) 生物の世界のつながり</p> <p>(4) とぎれることのない物質のつながり</p> <p>(5) 私たちをとりまく環境</p> <p>(6) 森林の生態系の構造と働き</p> <p>(7) 水辺の生態系の構造と働き</p> <p>(8) 農耕地の生態系の構造と働き</p> <p>(9) 都市の生態系</p> <p>(10) 身近な野生生物の保護</p> | <p>・人間と植物・動物のかかわりについて理解するとともに、関連する技術を身につけている。</p> <p>・人間と植物・動物とのかかわりに関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決している。</p> <p>・人間と植物・動物とのかかわりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 6 |
| <p>第3章 栽培と飼育の基礎</p> <p>・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。</p> <p>・作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。</p> <p>・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。</p> | <p>2 作物をとりまく環境とその管理</p> <p>(1) 作物栽培と環境</p> <p>(2) 作物の生育と大気環境</p> <p>(3) 作物の生育を支える土</p> <p>(4) 作物の養分と肥料</p> <p>(5) 作物をとりまく生物</p> | <p>・作物をとりまく環境とその管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。</p> <p>・作物をとりまく環境とその管理について多面的・科学的に考察し、想定される諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。</p> <p>・作物をとりまく環境に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 5 |
| <p>第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト</p> <p>・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。</p> <p>・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。</p> <p>・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。</p> | <p>7 ハクサイの栽培と利用</p> <p>(3) 栽培の実際</p> <p>(4) ハクサイの利用</p> <p>8 ダイコンの栽培と利用</p> <p>(3) 栽培の実際</p> <p>(4) ダイコンの利用</p> <p>11 ニワトリ</p> <p>(1) ニワトリとは</p> <p>(2) 課題設定と飼育計画</p> <p>(3) 飼育の実際</p> <p>(4) 採卵鶏の飼育</p> <p>(5) 病気と対策</p> <p>(6) ニワトリの加工</p> <p>13 コナラの利用と方法</p> <p>(1) コナラとは</p> <p>(2) 課題設定</p> <p>(3) 計画と実施</p> <p>(4) コナラの利用</p> <p>15 ガーデニングの利用と方法</p> <p>(1) ガーデニングとは</p> <p>(2) 課題設定</p> <p>(3) 計画と実施</p> <p>(4) まとめと評価</p> | <p>・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。</p> <p>・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。</p> <p>・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 16 |
| <p>定期考査</p> | | | ○ | ○ | | 1 |
| <p>第2章 私たちの暮らしと農業・農村</p> <p>・私たちの暮らしと農業・農村について理解するとともに、関連する技術を身につける。</p> <p>・私たちの暮らしと農業・農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する。</p> <p>・私たちの暮らしと農業・農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。</p> | <p>2 農業と食料供給</p> <p>(1) 人間と農業</p> <p>(2) 農業を支える自然環境</p> <p>(3) 農業・技術と食料生産</p> <p>(4) 農業・農村の姿</p> <p>(5) 食料の流通・消費と食品産業</p> <p>3 農業・農村の役割</p> <p>(1) 食料の生産・供給機能</p> <p>(2) 地域活性化の原動力</p> <p>(3) 国土・環境保全機能</p> <p>(4) 文化の形成と継承</p> <p>(5) 介護・福祉・教育的機能</p> <p>(6) 農村の価値創生</p> <p>4 これからの社会と農業・農村</p> <p>(1) 農業とエネルギー</p> <p>(2) これからの農業・農村</p> <p>(3) 持続可能な農業の維持と発展</p> <p>(4) 環境保全と農業</p> <p>(5) 農業・農村をとりまく課題</p> <p>(6) 都市と農村の共生と対流</p> | <p>・農業と食料供給について理解するとともに、関連する技術を身につけている。</p> <p>・農業と農村について理解するとともに、関連する技術を身につけている。</p> <p>・これからの社会と農業・農村について理解するとともに、関連する技術を身につけている。</p> <p>・農業と食料供給に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決している。</p> <p>・農業と農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決している。</p> <p>・これからの社会と農業・農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決している。</p> <p>・農業と食料供給について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>・農業と農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> <p>・これからの社会と農業・農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 11 |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|---|--|---|---|---|----|-----|
| 3 学 期 | <p>第3章 栽培と飼育の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。 | <p>3 家畜の特性と飼育</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 家畜と飼育 (2) おもな家畜の一生と生産 (3) 家畜の成長と繁殖 (4) 家畜の飼料と栄養 (5) 飼育環境の管理と整備 (6) 家畜と人間の新たなかかわり | <ul style="list-style-type: none"> ・家畜とその飼育に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・家畜とその飼育について多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・家畜とその飼育に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 | |
| | <p>第4章 栽培・飼育と環境のプロ ジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。 | <p>9 ジャガイモの栽培と利用</p> <ul style="list-style-type: none"> (3) 栽培の実際 (4) ジャガイモの利用 <p>1 1 ウシ</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ウシとは (2) 課題設定と飼育計画 (3) 飼育の実際 (4) ウシの加工 <p>1 4 間伐の方法と間伐材の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 干ばつと間伐材 (2) 課題設定 (3) 計画と実施 (4) まとめと評価 <p>1 6 壁面緑化と屋上緑化の方法と利用</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 壁面緑化と屋上緑化とは (2) 課題設定 (3) 計画と実施 (4) まとめと評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取組もうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 13 | |
| | <p>定期考査</p> | | | | ○ | ○ | | 1 |
| | | | | | | | 合計 | 140 |

三宅 高等学校令和6年度（1学年用）教科

家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭

科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 普通科・家政科

教科担当者： 糸井蘭菜

使用教科書：（ 図説 家庭基礎 （実教出版） ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎

の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|--|
| 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 | 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実の向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 |

| 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|--|---|--|---|---|---|----------|
| <p>A 「青年期の自立と家族・家庭」</p> <p>【知識及び技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルののっとり生活設計について考える。 ・生活にはどのような場面で金銭が必要となるか考える。 ・青年期の生き方について自立の観点から学習する。 ・自己分析をすることで自分らしい生き方について考える。 ・生活を支える労働について学ぶ。 ・将来の職業選択について考える。 ・グラフを見ながら、生活時間について考え、男女の違いについて比較する。 ・これからの家庭生活や社会のあり方について、どのような改善が必要か考え、話し合う。 ・さまざまな家族形態について学ぶ。 ・世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。 ・家族に関する法律を知り、その理念や現在の動きについて学ぶ。 | <p>【知識・技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。</p> <p>【思考・判断・表現】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 10 |
| <p>B 「子どもの生活と保育」</p> <p>【知識及び技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の健康が将来の生まれてくる子どもにつながっていることを知り、育てる力について学ぶ。 ・子どもの身体の成長について、大まかな流れと特徴を学ぶ。 ・発達の順序や、子どもの世界観について学ぶ。 ・人の発達において、保育や人のかかわりがいかに重要であるかを、事例をもとに考える。 ・子どものよい生活習慣はすこやかな成長を促すことや、子どもの健康管理や安全対策の重要性について学ぶ。 ・おもちゃや絵本などの児童文化財が子どもの発達や生活にどのような影響を及ぼすのかを考える。 ・子どもを生み育てる意義と人間形成の過程について考える。 ・これからの親子関係について、事例をもとに考える。 ・子育てにおける社会環境について考える。 ・仕事と子育てが両立できる環境について考える。 | <p>【知識・技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 8 |

| | | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|---|
| <p>C 「共生社会と福祉」</p> <p>【知識及び技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度について学習する。 ・これからの介護と課題について、事例を用いて考える。 ・福祉、ソーシャル・インクルージョンの考え方を学ぶ。 ・自助、互助、共助、公助の状況に応じたバランスを考える。 ・社会保障制度とその目的について学ぶ。 ・地域福祉の担い手を考え、助け合うことについて学ぶ。 ・ボランティア活動の必要性や意欲について、話し合いを通じて考える。 | <p>【知識・技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 4 |
| <p>定期考査</p> | | | ○ | ○ | | 1 |

| | | | | | | | |
|-------------|---|--|---|---|---|---|----|
| 2 学 期 | <p>D 「食生活と健康」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解するとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・食べることと健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する。 ・5大栄養素と水について学習し、からだとのつながりについて考える。 ・炭水化物の働きと、炭水化物を多く含む食品について学ぶ。 ・脂質の働きと、脂質を多く含む食品について学ぶ。 ・たんばく質の働きと、たんばく質を多く含む食品について学ぶ。 ・ビタミンの働きと、ビタミンを多く含む食品について学ぶ。 ・ミネラルの働きと、ミネラルを多く含む食品について学ぶ。 ・味に大きな影響を及ぼす調味料や香辛料、さまざまな加工食品について学ぶ。 ・食品の旬や選択する際のポイント、食品の品質表示について学ぶ。 ・食中毒の種類を学び、衛生的な管理に結びつける。また、食品添加物の使用の目的や安全性についても学ぶ。 ・調理の一連の流れを実践し、その理論やコツを学習する。 | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <p>食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 14 |
| 2 学 期 | <p>E 「衣生活と健康」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解するとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができるようになる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解するとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・人と衣服のかかわりや、衣服の機能について学習する。 ・快適で安全な衣服について学習する。 ・繊維の種類と特徴、糸や布について学習する。 ・衣類素材の性能や加工・改善について学習する。 ・衣服の入手から処分までの流れを学習する。 ・衣服の表示を見ながら、衣服購入のポイントについて考える。 ・洗濯の種類と方法、洗剤のはたらきについて学ぶ。 ・家庭での洗濯方法・保管の方法などについて学ぶ。 ・衣生活と資源・環境とのかかわり、また、環境に配慮した衣生活について学習する。 ・ファストファッションについて、事例を挙げながら話し合い、商品選択の際に心がけることを考える。 | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <p>被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 8 |
| 2 学 期 | <p>F 「住生活と住環境」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解するとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・住まいの機能や文化、生活様式について学習する。 ・基本的な平面図の読み取り方を学習する。 ・生活行為に対応した様々な住空間について学習する。 ・住まいにおけるバリアフリーやユニバーサルデザインについて学習する。 ・ライフステージやライフスタイルに応じた住生活について学習する。 ・快適な室内環境について、日照・採光、通風・換気、騒音・しや音、冷暖房などの要素を学習する。 ・災害や家庭内事故とその対策について学習する。 ・長く住み継いでいくための方法について理解する。 ・環境に配慮した住まいや住環境にするための方法を理解する。 | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <p>住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |

| | | | | | | | |
|-------------|---|--|---|---|---|---|----|
| 3 学 期 | G 「生活における経済の計画」 【知識及び技能】 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を発見して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。 | ・家計の構成（収入・支出）を学習する。 ・現代の家計の特徴について学習する。 ・ライフイベントや生活のリスクなどに備えた、生涯を見通した経済計画と管理について学習する。 ・家計と国民経済・国際経済のつながりについて学習する。 | 【知識・技能】 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 【思考・判断・表現】 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を発見して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 7 |
| | H 「消費行動と意思決定」 【知識及び技能】 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。 | ・さまざまな契約や主体的な消費行動について学習する。 ・多様な販売方法や、問題商法の種類と対処法について学習する。 ・消費者と事業者の間の力の差を埋めるための制度や法律について学習する。 ・多様化している支払い方法や多重債務の予防と対処について学習する。 ・近年の消費者問題を学び、問題解決のための消費者運動や消費関連の法律を学習する。 | 【知識・技能】 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 【思考・判断・表現】 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | 定期考査 | | | ○ | ○ | | 1 |
| | | | | | | | 合計 |
| | | | | | | | 70 |

年間授業計画

三宅 高等学校 令和6年度（1学年用）教科 総合的な探求の時間 科目 人間と社会

教科： 総合的な探求の時間 科目： 人間と社会 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 1 学年 NK・F 組

教科担当者： （ NK・F組：手塚 博生、斎藤 光 ）

使用教科書： （ 人間としての在り方生き方に関する教科「人間と社会」（東京都教育委員会） ）

教科 総合的な探求の時間 の目標：

【知識及び技能】色々な職業について調べることで、自分を見つめ、自分の生き方を考える。

【思考力、判断力、表現力等】三宅島の産業と歴史文化を知り、自分と島の未来について考える。

【学びに向かう力、人間性等】三宅島の現状を認識し、共同して三宅島の復興に取り組む態度を育て、郷土愛と奉仕の心を育む。

科目 人間と社会 の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|---|
| 「人間と社会」に関する基礎的な知識・意義を学び、私たちの生きる社会で求められる力を理解している。 | 「人間と社会」に関する学習の視点を身に付け、生きる上での課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 | 「人間と社会」に関して探究する姿勢を身に付け、を自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当 時数 |
|-------------|---|------------------------|--|---|---|---|----------|
| | | | | | | | |
| 1 学 期 | ・「人間と社会」を学ぶ意義・方法について理解させる。また、「人間と社会」に対する興味・関心と意欲を持たせ、生きる上での課題を解決できるようにする。 | 序章 人間と社会 - 学習の視点を考える - | ・「人間と社会」に関する基礎的な知識・意義を学び、方法と進め方を理解している。 ・「人間と社会」に関する学習の視点を身に付け、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・「人間と社会」に関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
| | ・働くことの意義と課題に関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・働くことが社会に貢献することを理解し、どのように自分が成長するのかをレポートにより表現できるようにする。 ・「働くこと」についてグループディスカッションを行い、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付けさせる。 | 第3章 働くことの意義 | ・働くことの意義を考え、高校生活を送る上で必要な意味を理解している。 ・働くことに関する学習の視点を身に付け、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・働くことに関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | ・学ぶことの意義と課題に関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・学ぶことに関する諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようにする。 ・学習についてグループディスカッションを行い、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付けさせる。 | 第2章 学ぶことの意義 | ・学ぶことの意義を考え、高校生活を送る上で必要な意味を理解している。 ・学ぶことに関する学習の視点を身に付け、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・学ぶことに関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
| | ・自助・共助・公助に関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・人生のリスクについて、それを支える共助・公助にどのようなものがあるのかを理解し、レポートにより表現できるようにする。 ・疑似体験を通じ共助・公助の必要性や必要とされる方の施行を理解する。 ・ボランティア活動を通して、自ら課題を解決する。 | 第12章 支えあう社会 | ・「人生のリスク」やそれに伴う自助・共助・公助の必要性を学び理解している。 ・ボランティア活動を通じて、共助・公助を行う際にどのような心構えを求められているのかを考え、ワークシートにまとめることができる。 ・体験活動を通じて支え合う社会に関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 11 |
| 2 学 期 | ・地域社会との関わりに関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・地域社会で活動する人々について、活動例がどのようなものがあるのかを理解し、レポートにより表現できるようにする。 ・地域をめぐる状況において、比内手の確保など様々な問題を理解する。 ・児童・福祉・国際ボランティア活動を通して、自ら課題を解決する。 | 第13章 地域社会を築く | ・地域社会とのかかわりや地域社会での活動例、現状を学び理解している。 ・体験活動を通じて、地域社会をめぐる現状を経験から考え、ワークシートにまとめることができる。 ・体験活動を通じて地域社会を築くためにはどのようにすればよいか、自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 8 |
| | ・選択し、行動することに関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・変化の激しい社会に直面していることを理解し、そのように自分が成長するのかをレポートにより表現できるようにする。 ・「決定と行動」についてグループディスカッションを行い、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付けさせる。 | 第7章 選択し、行動する | ・選択の方法や変化の激しい社会環境であることを学び、自分で方法を考え、判断することが求められていることを理解している。 ・選択し、行動することに関して自分自身を振り返り、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・選択することや決定することに関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。 | ○ | ○ | ○ | 2 |

